

# 第55回 全国建設業労働災害防止大会

## I N横浜

- ◎ 日 時：平成30年9月20日（木）、21日（金）
- ◎ 場 所：パシフィコ横浜
- ◎ 参加者：安全委員会 守田主一、田中博行、川上英俊

9月20日（木）総合集会（パシフィコ横浜・展示ホールD）

13：00 会場到着

13：15 開会

物故者黙祷の後、建設業労働災害防止協会・錢高一善会長の挨拶に続き、来賓（厚生労働大臣、国土交通大臣、神奈川県知事、横浜市長）の挨拶により開会。

13：50 安全衛生表彰・顕彰基金による顕彰  
熊本県

「功績賞」 丸昭建設(株) 尾崎 孝要  
(株)杉本建設 中井 正利

「優良賞」(会社)  
苓州建設工業(株)

「優良賞」(工事現場)  
建吉・富坂・三友建設共同企業体  
熊本合志警察署（仮称）庁舎新築工事

それぞれが受賞されました。

14：10 安全の誓い

私たちは、人命尊重の基本理念の下、建設産業で働く者一人ひとりの安全確保を第一に不断の努力を続けてまいりました。その結果、建設業の労働災害は長きにわたり減少しております。

しかし、平成29年度に終了した第7次建設業労働災害防止5ヵ年計画では、残念ながら、その目標を達成することができませんでした。

今後、建設産業は、社会資本整備に係る工事量の増加が見込まれることから、これにより労働災害が増加することがないように、本年を初年度

とする国の「第13次労働災害防止計画」を基本として策定した「第8次建設業労働災害防止5ヵ年計画」の趣旨を踏まえた墜落・転落防止をはじめとする各種事業を積極的に展開し、さらなる安全衛生管理活動の充実を図り、労働災害を根絶するとともに働きやすい安全・安心な職場環境を形成する必要があります。

このため、経営トップの強いリーダーシップの下、全員が一丸となって、リスクアセスメントをはじめとする、あらゆる労働災害防止活動を計画的かつ継続的に進め、現場で働く一人ひとりが、安全と健康を第一すると「安全文化」を定着させることが重要となります。

私たちは、本日の全国大会を契機として、安全衛生意識の一層の向上と建設業に従事する者が労働災害に遭うことがないように

- 一 「墜落・転落災害」の撲滅と「建設機械・クレーン等災害」及び「倒壊・崩壊災害」の防止対策の徹底
- 一 リスクアセスメントの確実な実施とニューコスモスの積極的な導入
- 一 建設現場における職場環境改善対策とメンタルヘルス対策の推進

を重点として、能力向上教育等安全衛生教育の充実を含めた労働災害防止活動に取り組むとともに、長時間労働の抑制を図り、働き方改革に資する安全で働きやすい職場環境を実施することを誓います。

平成30年9月20日

以上の内容が、大会副実行委員長 本田敦郎氏より宣言されました。

- 14:15 講演「最近の労働安全衛生の動向について」  
厚生労働省 労働基準局  
安全衛生部長 椎葉茂樹氏
- 14:35 アトラクション  
東海大学チアリーディング部 FINE
- 15:00 休憩
- 15:20 講演「心で走る」  
横浜DeNAランニング総監督 瀬古俊彦氏
- 16:30 閉会

9月21日（金）専門部会（パシフィコ横浜 アネックスホール）

建築部会

9：00～発表①

「見られている現場」から「魅せる現場」への意識改革

□ 安全で働きやすい、作業員が自慢できる職場を目指して □

三井住友建設(株)東京建築支店  
(仮称)八王子計画新築工事作業所 作業所長 由利宏幸

発表②

フルハーネス型安全帯の移行と工夫への取り組み

□ 型枠専門工事業者のフルハーネス安全帯導入奮闘記 □

城元躯体工業(株) 代表取締役 池田直熊

以上の様な発表がアネックスホールF 201～204 で行われました。

建設業界に対する3Kのイメージの脱却を各社が模索され、工事に携わった全ての方々から「あの現場で働けて良かった」と言って貰えるよう、その何千人もの家族や友人からも建設業に対して好印象を持って貰える現場作りを心掛けていることが各社の共通テーマでした。

以上

